

報道関係者各位  
プレスリリース

学校法人文化学園 文化服装学院  
一般財団法人ニッセンケン品質評価センター

## 子ども・児童の交通事故防止のため「おしゃれな高視認性安全服」を制作 文化服装学院 文化祭で作品の展示を行います

ファッション業界の人材を育てる学校法人文化学園 文化服装学院（学院長：相原幸子）と繊維製品等の第三者評価機関 一般財団法人ニッセンケン品質評価センター（理事長：駒田展大）は、【ファッションで子ども・児童を交通事故から守る】というテーマで、同学院学生による「子ども・児童用 高視認性安全服」の作品制作、及び作品展示を通じた高視認性安全服普及のためのコラボレーションに取り組んでいます。

同校の文化祭期間中、下記スケジュールにて、今年度制作の作品発表を行います。おしゃれで、かわいい・かっこいい、そして子ども自身が着たくなる安全服を展示しています。皆様の取材をぜひお願いいたします。なお、本取組みに関する詳細は参考資料をご覧ください。

### ①文化祭での子ども・児童用 高視認性安全服の作品展示について

会期：2019年11月3日（土）～5日（月） 9:30～18:00（最終日は16:00で終了）

会場：文化服装学院 B101 番教室（B館10階）（東京都渋谷区代々木3-22-1）

参考：文化祭 URL <https://www.bunka-fc.ac.jp/event/culture-festival/>

### ②マスコミの皆様への取材対応について

取材をされるご希望のお時間をお聞きし、調整の上、対応をさせていただきます。

お手数ですが、11月1日（金）までに、下記問い合わせ先までお申し込みをお願いいたします。

当日の対応者：作品制作に携わった学生数名

文化服装学院 ファッション工科専門課程ファッション工科基礎科 教授・講師  
一般財団法人ニッセンケン品質評価センター 職員

本件に関するお問い合わせは以下までお願いいたします

### ①学校法人文化学園 文化服装学院 教務部教務1課 宇都宮愛

〒151-8522 東京都渋谷区代々木3-22-1 Tel: 03-3299-2203 / E-mail: [utsunomiya@bunka.ac.jp](mailto:utsunomiya@bunka.ac.jp)

### ②一般財団法人ニッセンケン品質評価センター マーケティンググループ 企画広報課 滝口順司

〒111-0051 東京都台東区蔵前2-16-11 Tel: 03-3861-2341 / E-mail: [pr-contact@nissenken.or.jp](mailto:pr-contact@nissenken.or.jp)

以上

(1) 高視認性安全服について

①高視認性安全服の概念

JIS（日本工業規格）T 8127 で定められている、「蛍光素材」と「再帰性反射材」を用いることで、日中・薄暮時・夜間を問わず、視認性を高めた安全服のことを指します。

同 JIS では、道路作業者が交通事故に巻き込まれないために着用するものとしており、反射材の面積や蛍光素材の色目が厳密に定められています。



②日本での高視認性安全服の課題

JIS T 8127 はあくまで成人を対象としているため、子ども・児童用にデザインすることが非常に難しいのが現状です。そのため、民間の団体が JIS を応用して子ども・児童も着用できるデザインの規格を発効しています。

③文化服装学院の取組みの特徴

JIS T 8127 に定められた基準に適合した蛍光素材（提供：東レ株式会社）と反射材（提供：ユニチカスパークライト株式会社）を使用し、JIS 規格の細かな部分にはとらわれずに、自由な発想でファッション性の高い高視認性安全服を制作することにあります。

(2) 子ども・児童の交通事故について

交通事故件数は年々減少傾向にあるものの、年間約 50 万件あり、単純計算で 1 日約 1,400 件発生している。とりわけ歩行中の死傷事故は 7 歳の児童が約 1500 人と他の年齢と比べて極端に多くなっている。その原因として、公益財団法人交通事故総合分析センターでは「保護者から離れて歩行する機会が増えること」としています。下グラフは参考。

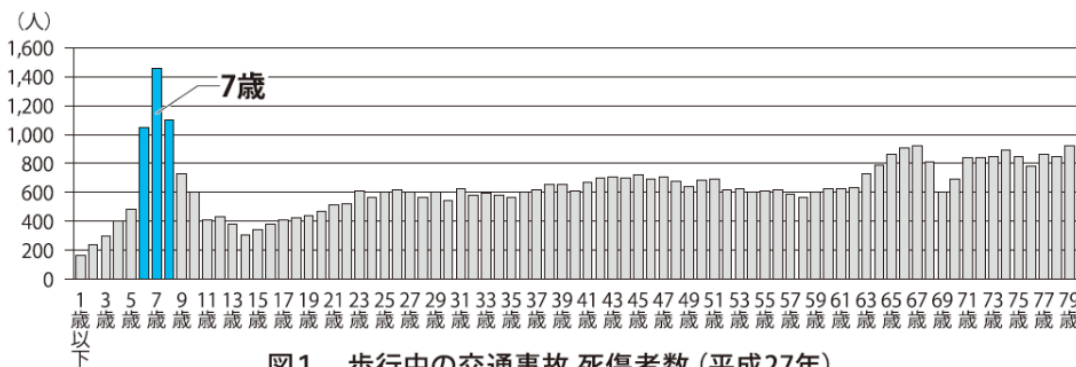


図1 歩行中の交通事故 死傷者数 (平成27年)

2017年3月発行「イタルデザインフォーメーション 交通事故分析レポート No.121」より抜粋  
発行：公益財団法人 交通事故総合分析センター

(3) 本取組みの詳細

①おしゃれで、かわいい・かっこいい高視認性安全服制作に取り組む目的

高視認性安全服は、反射材と蛍光生地を組み合わせにより昼間・夜間を問わず目立ち、ドライバーから歩行者をより見えやすくする衣類のことです。しかし一般的に販売・着用されている安全服は画一的なデザインが多く、特別な場合を除き、積極的に着用される機会があまり無いのが実態と言えます。

このコラボレーションでは、ファッションを専門に学ぶ文化服装学院の学生が独自の自由な発想で、【子どもが着たいと思う、かわいい、かっこいい高視認性安全服 (対象は6~8歳)】の制作に取り組

んでいます。

さらに、将来のファッション業界を担う学生達が、ファッション性に加え、安全性をアパレル製品に採り入れることの重要性を学んでもらうことも重要なテーマです。

下の写真は、2017年度（左）・2018年度（右）、それぞれの作品を当時の文化祭で発表した際のものです



②年間スケジュール

|           | 内容   | 日時                          | 会場                     |
|-----------|--|-----------------------------|------------------------|
| プレゼンテーション | 作品制作を控え、学生が市場調査の結果や安全服のデザインに関する企画プレゼンテーションを実施。その後、実際の制作に着手 | 2019/7/5（金）<br>13:30～16:00  | B125/126 教室<br>（B館12階） |
| 文化祭       | 完成した作品を展示。一般による人気投票を実施                                     | 2019/11/3（日）<br>～11/5（火）    | B084 教室<br>（B館8F）      |
| 最終審査会     | 完成した作品を学生がプレゼンテーションし、最優秀作品等を決定                             | 2019/11/27（水）<br>9:20～12:00 | B201 講義室<br>（B館20階）    |

③参加している学生について

同学院としての本取組みの位置付けは「産学連携コラボレーション」。対象はファッション工科専門課程ファッション工科基礎科1年生で、そのうちの希望者75名（21グループ）が制作に参加する。

④主催2者について

学校法人文化学園 文化服装学院

1923年に、わが国最初の服装教育の学校として認可される。以降約100年にわたって日本のファッション教育の中心的役割を果たしている。文化服装学院を巣立った卒業生は30万人以上。

飛び立ったデザイナーたちは、日本のファッションを世界トップレベルまで押し上げ、その第一線で活躍し続けている。

一般財団法人ニッセンケン品質評価センター

1948年設立。繊維製品を評価する第三者試験機関。JISやISO等の公的基準に基づき、衣類などが店頭で並ぶ前の事前試験を行う。評価項目としては、主に染色堅牢度、耐久性、機能性、さらに視認性や有害物質等に関する安全性全般。日本企業が取り扱う衣類等繊維製品の品質は世界トップレベルであり、これはひとえに繊維系第三者試験機関の功績とも言える。

以上